

(さいたま市スマートシティコンソーシアム)

■都市課題

- ・自家用車依存
- ・コロナ禍による地域経済の低迷
- ・外出機会による健康懸念

■解決方策

- 「ライフサポート型 MaaS」の構築・実装
- ・モード間連携による交通利便性向上
- ・モード-目的地連携による地域活性化
- ・交通インフラを活用した健康づくり推進

■KPI

KPI	現況値	目標値
まちなかの滞留人口・時間	－ (取組の中で計測)	－ (取組の中で計測)
交通利便性への満足度	57.8% (R2) ※1	64.0% (R7) ※1
自動車分担率	26.8% (H30) ※2	現状からの減
グリーンポイント発行量	0 ポイント	－ (取組の中で計測)
店舗売上	－ (取組の中で計測)	－ (取組の中で計測)
身体活動量	－ (取組の中で計測)	－ (取組の中で計測)

■実証実験の概要・目的

「ライフサポート型MaaS」の核となるモード間、モビリティ×商業、モビリティ×健康の実装事例を創出

- ・各取組みから得られたデータを用いて効果検証を行い、今後の横展開方針を整理
- ・今後のまちづくりに重要な視点であるウォーカブルな都市空間環境の形成に向けた示唆を得る

■実証実験の内容

実証1(モード間接続)

利便性向上・環境負荷低減に向けたモビリティサービスシームレス化

- ・鉄道とシェアモビリティのサブスクリプションサービス
- ・高速バス利用者へのシェアモビリティ利用促進
- ・シェア型マルチモビリティの拡充



実証2(モビリティ×商業)

地域内回遊性向上に向けた1to1マーケティング

- ・情報通知機能を用いた、過去の行動実績に基づく商業施設のキャンペーン情報発信等の誘客施策
- ・電子クーポン等を活用した効果のトラッキング



実証3(モビリティ×健康)

健康増進・賑わい創出に向けた日常的な健康づくりコンテンツサービス活用

- ・日常的な運動習慣づくり
- ・インセンティブ付与やエンタメ要素の付加によるウォーキング・自転車利用推進施策
- ・地区内オープンスペース・施設等を活用したスポーツ・運動機会の創出



■実証実験で得られた成果・知見

実証1(モード間接続)

- ・地域の移動利便性や回遊性向上に寄与
- ・インフラ面では、鉄道の環境空間などの遊休地を活用することが効果的
- ・ソフト面では、民間事業者の既存のシステムを活用することでスムーズな連携が実現

実証2(モビリティ×商業)

- ・1on1 マーケティングの仕組が確立
- ・連携効果を高めるにはユーザーの趣味嗜好に合った情報発信が必要

実証3(モビリティ×健康)

- ・地域ポイントによるインセンティブは健康事業に参加する理由になる
- ・健康無関心層をどのように動員するかが課題
- ・健康事業以外でのインセンティブ、他の健康事業イベントと連携が必要

■今後の予定

ライフサポート型MaaSの構築

- ・ライフサポート型MaaSの多様化、継続的な実施

モビリティサービスの充実

- ・脱炭素先行地域の取組と連携によるさらなるシェアモビリティ充実化

スマートプランニングによるウォーカブルな都市空間・環境の形成

- ・都市内で観測されたデータの都市基盤整備への活用を検討